

白亜

校訓「創造」

令和7年10月24日（金）発行
西脇市立西脇南中学校 広報『白亜』
臨時号
TEL 22-3553 FAX 22-3554
発行元：西脇南中学校



勉強 がんばってみませんか

3年生がいよいよ受験シーズンに突入します。生徒、保護者の皆様にとって、大変な時期になります。しかし、お子様と将来を考えていくかけがえのない時でもあります。お子様の特性や長所、興味・関心、世の中の状況、進学希望校の状況や入学に際して求められる力（学力）など、いろんなことを鑑みながら決定をしていくことになります。先日、近隣の高校の校長先生がこんなことをおっしゃいました。「大学入試も随分変わってきました。かつては1月、2月が入試の本番。でも今はいろんな受験の形があって、高校時代の各自の『探求学習』の成果の発表をもって選考されるような受験スタイルもある。求められる学力も変わってきました。」こうした自己推薦といった入試スタイルとともに、これまでからある大学入学共通テストや兵庫県公立高等学校入学者選抜学力試験の出題の内容や方法もずいぶん変わってきました。これまでのように「たくさんのことを暗記しそれをアウトプットする力」から、テーマの趣旨を理解して、情報を取捨選択し、結論に向かって考えていく思考力や表現力、判断力」といったものが問われる問題が出題されるようになってきました。

こうした状況を踏まえ、生徒、そして教職員に対応を求めるために、国は毎年、全国学力・学習状況調査を行っています。ですから、この試験の出題の内容や方法といったことについては、興味をもち、対応できる力をつけていかなければならないと考えます。となると、本校生徒の実態が気になるところですが、まずは学力調査ですから、生徒個々で結果は違います。また、年によっても結果は違います。ですから、「平均点」によって判断をするというより、「一人一人の力を分析すること」が必要になります。すでに生徒一人一人に結果の個票をお配りしています。この結果を受けて、教職員、そして生徒が取り組むこと、保護者の皆様にご協力をいただきたいことを提案いたします。南中生ならきっとできます。

1 教職員にとって必要な取組

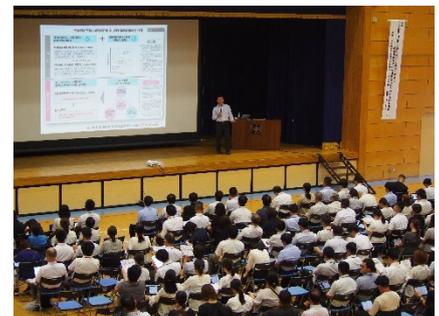
- (1) 生徒一人一人の結果の分析。全体の傾向とそれを生じさせている自分の指導内容や方法の見直し。
- (2) 今後生徒に求められる力の共通理解と指導方法の研究のための職員研修

この必要性から、本年度西脇南中学校区では、文部科学省から「リーディングDXスクール」の指定を受け、一人一台端末（タブレット）も活用した、授業構造や方法の研究を進めています。「教師が情報や知識を与え、それを暗記する。」「教師が考え方を誘導する。」「教師が結論を伝える。」といった学習方法から、「生徒が解決に向かって自分で調べていく。友だちの考えも参考にしながら、自分なりの結論をだしていく。」そんな授業展開に普段の授業をしていこうとする研究です。「生徒たちの思考力や関心が高まるような『深い学び』』に向けての研究です。9月24日（水）には、こうした研究のわが国の第一人者である、文部科学省の田村学先生を本校にお招きし、授業公開と講演会を実施しました。市内外から200名近い参加がありました。現在も定期的に研究を続けています。



- (3) 探求学習への取組

通常の授業での「探求的な学習」へのチャレンジとともに、総合的な学習の時間において、今年も全校生徒がゼミ形式で学習を行っています。12月12日（金）には、発表会も開催します。



- (4) 基礎基本の定着に向けた支援、「学びの形」への支援

生徒の知識がつながり、それが概念となっていくような学びが必要です。そのためには当然、知識や技能の習得は必要です。「テストに出るから覚えておきなさい。」ではなく、その習得の方法についての工夫と、それを活用するための取組が必要です。

2 生徒の皆さんに期待すること

(1) 自分の将来のプランをたてる。

就きたい職業、行きたい学校などについて、希望をもってプランをたてる。自分を大切に思えない人が自分の将来に思いを馳せることはありません。ぜひ、周囲の仲間の良いところを評価し、仲間のやる気も引き出してあげてください。前向きに頑張る仲間に囲まれていると、自分の集中力や力も向上します。

(2) 毎日の生活・学習習慣を見直す。

ア 就寝時間と睡眠時間についての見直し（人間のパフォーマンスは睡眠に大きく影響されます。）

イ スマホの制限

スマホに費やす時間が莫大な時間になっている人がいます。人生のなかで、とてももったいない、無駄な時間である気がします。

ウ 授業への集中

教師や仲間の話をしっかり聞き、吸収し、自分のなかに知識や技能を蓄積し、それらをつなげて、ものの見方や考え方を構築していきたいものです。

（「授業中におしゃべりをする。こっそりとタブレットでゲームをする。」などといった事案の報告があります。周囲にも迷惑をかけ、自分が大いに損をすることになる行為です。）

エ 家庭学習の習慣化

授業に集中し、授業で力をつけることが一番ですが、やはりスポーツでも同じで、人より上手く、強くなる人は、学校の練習のほかにも、自分で練習をしているものです。家庭において、予習や復習、自分なりの探求を続けていきたいです。**学年＋1時間**を目標にしたいです。（1年生なら2時間）。生徒質問紙で、本校生徒の家庭学習時間が、全国の平均と比べかなり少ないというデータがでています。予習もして、「わからない点」を定期テスト前の学習計画等についても、「戦略」が練れるようにしたいです。ある期間に集中的に取り組むことでつく力もあります。

オ 世の中のニュースに関心をもつ。

学力調査問題において、社会のニュースを題材にとりあげているものが増えています。普段からニュースに触れ、見方や論点を少しずつ磨いてほしいです。

カ 少し長めの文章を書く。長めの文章を読む。いろんなデータ（数字やグラフ）に目を通す。

授業の振り返りや作文等において、少し長めの文章を書く努力をしたいです。また他の人が書いている文章もできるだけ参考にしながら、表現の仕方、見方、考え方を構築して行ってほしいです。

キ 教科書を読み込む。同じワークを2度、3度と解く。

教科書はやはりとても優れたテキストです。まず教科書を読み込み、その内容を少しでも理解したいです。そして学校から配布されているワークなどで、出題の傾向を知り、解く力をつけたいです。

ク 生活態度の見直し

社会や学校のルールを守り、周囲の人と穏やかに過ごせる環境をつくる努力をしたいです。心がずさんでいくと、向上心や集中力は欠けていきます。悩み、がんばれない時も当然ありますが、いろんな人に相談しながら、できることをみつけ実行していきたいです。

3 保護者の皆様をお願いしたいこと

(1) 上記の「生徒の皆さんに期待すること」につきまして、その実現のために、その習慣化やルールづくりについての支援と励ましを、引き続きお願いします。

(2) 全国学力学習状況調査や定期テスト等の結果について、その総得点だけでなく、強みや苦手としている点についても見てあげていただきたいと思います。取組の課題を明確にしていきたいです。

参考 令和7年度全国学力調査結果についての本校の傾向 3教科とも、正答率は全国平均より1問程度低いです。

☆国語 無答率は全体として少なかった。考えようとする意欲を評価したい。観点別評価では、思考よりも知識・技能に関する問題で得点を落としている。手紙の書き方・見直しに関する問題は全国平均値より高かった。

☆数学 領域としては、「数と式」「データの活用」で誤答が多かった。関数は全国との差が少なく、よく解答できていた。特に、一次関数は全国よりもよい正答率であった。相対度数などのデータを用いた確率の分野で無答率が高かった。また、じゃんけんの計算で、100%のところを、33%と回答した割合が多かった。問題の意味を理解できていない可能性がある。

☆理科 電気抵抗・大地の変化（地学領域）に関する問題で全国平均を超えている。化学式・化学変化に関する問題、実験の考察に関する問題で全国平均との差が開いてしまった。

